



論說

人間は一生修養を怠るべからず

(右は四月二十一日森本本縣學務課長の  
本校參觀の節校長の懇囑により講演せら  
れたる大意を筆記したるものなり文責固  
より記者にあり 東原、都竹筆記)  
只今御紹介を受けたる次第で甚だ恐縮に存  
するのであります。皆さんが非常に有益な  
る勤勞を割かれて此處に集まられて私の話  
を聞いて下さるのは身にどつて過分の光榮  
であります。而しうれに副ふだけの話も出  
來ませす恐縮の次第であります、然し校長  
よりたび／＼機會がないにより何か話せど  
のたつての御話しによりとても其の御希望  
に副ふ事も出來ませんが、此の前私が御話

した諸君はもう已でに三月卒業せられ、諸  
君にゆる／＼御目にかゝるは始めての事で  
御座いますから、今日はほんの暫らく御静  
聽を煩はしたので御座います、私は人間  
は一生修養を怠つてはならないと信じて居  
ます、其れについて己を堯舜にせよと云ふ  
言葉があります之れは誠によい言葉で堯と  
云ひ舜と云ひ、共に支那の聖人であつて非  
常に高德な人でありました。己れを堯舜に  
せよとは己を聖人にせよと云ふ事で、取り  
も直さず修養の極致を云つたのであります  
私は書生時代からこの言葉を大變よいと信  
じてゐました。どうも人間といふ者はへだ  
てて見ると別種の様に見えます。所謂英語  
のローマンチック即ち超人間となる。人間  
から時を隔て場所を隔てて見ればそれだけ  
超人間的となります。どんな豪傑も現在、  
側では豪いとも何とも分らんもので、近い  
例が故伊藤さんを御覽なさい、生存中は非

難が絶えず、始終東京バツクや大坂バツク  
に良い材料を供給して居られました。それ  
が一朝ハルピンの露と消わられてより伊藤  
さんは超人間となられ神様の様になられた  
らばでは伊藤さんは普通の人で笑ひもし怒  
りもし飲み食ひもし、特にわらひとも何ん  
とも見なかつた。それがどうです。死ん  
だ後には實にわらい稀に見る國家の桂石  
と迄稱へらるるではありませんか。又乃木  
さんを御覽なさい、彼の人が日露戦争後學  
習院長となられ下田歌子を追ひ出された時  
にはランデ相模にならぬ歌子に負けたと笑  
はれ、日露戦争の老将も一女性に苦かず、  
寧ろ將軍は學習院長なごせずあの日露の老  
將として引こんで居た方が良いとまで云は  
れました。それが死んだ後はどうですか、乃  
木さんは武士の典型大和魂のこりかたまり  
忠勇と云ふものを練り固めればあの様な人  
となるであろう、實に此上もなき武將であ

大正二年五月廿三日印刷  
大年二年五月廿五日發行

(定價三錢)

長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地  
編纂兼發行人 安井正夫  
上水内郡岸田村字中御所八十番地  
印刷者 田中彌助  
長野市西后町乙廿一番地  
印刷所 長野新聞社活版部  
長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地  
發行所 蘆澤書店

○岐蘇林友

目次

- 論說、人間は一生修養を怠る可からず
- 研究 能登の檣林
- 雜報 學校記事、校友會記事
- 文苑 辨士短評、校友消息
- 其他 予が所感、俳句
- 會告數件



ると迄云はるるのであります。御維新の元勳大久保公等も生きて居らるるうちには甚にまけて飯ると直ぐ奥さんにあたりちらした

あつた。然るに日清戦争後支那を理解してからは支那の書や音楽などはやらないやうになつた。即ちそれまでは支那をロー

が近頃では三位位の人は何でもない。承れば當地は先に樞密院副議長芳川顯正伯が來

ば一番手取り早いのは克己即ち己に克つにありと思ひます。どうも人間は慾心が多いもので慾のために人を欺き人に怒り人を嘲

養ふは寡欲に如くはなしと云ひました。此慾は前に云うた自分の私慾で國家の爲の慾

んやるですな、そうすると肌が真赤になるそこで普通のやうに衣服を着ます。その時は非常に愉快を覚えます。心の賊を朝打ち



生の心材は清香を有し淡黄白色なれども乾燥すれば微黄色を帯ぶるに過ぎず材質堅くして水温に耐へ飽跡を美麗にして光澤強く乾濕による伸縮の度少なく又反張せず然れども幹の甚しく拗折せるものは四分板に挽く時は反張するの恐あり但し拗折の甚しき部分は多く枝節多き幹の上部なるを以て利用上甚しき損害を見ず

材の組織は最通直なるものにも多少拗折の氣味あるを以て尋常の前挽の目立方にては之を挽割るに多くの力を要す

ロ、草檔材

生の心材は濃香を有し暗黄色を呈すれども乾燥すれば微黄色となる飽跡を手にて強く二三回摩擦すれば毛立つ程材は軟にして粗なり生長最速力なるが故に木理粗にして抵抗力弱く又水湿に耐えず

材軟なれども毛立つ故に之を挽割るに割合に多くの力を要す比重著しく輕し

ハ、金檔材

生の心材は淡香を有し極淡黄色を帯ぶれども乾燥すれば黄色を證ること困難なり材甚堅く抵抗力強大なり水湿に耐ゆること非常にして木理緻密なり眠芽甚だ多く其の附近は黒味を帯び美麗なる姿を現す

幹の外面所々凹凸ありて通直ならず比重最大なり

檔材は乾燥するに従ひ半徑の方向に放射狀に割裂し易し杉の如きは其の裂目一ヶ處に纏まりて利用上大害なきも檔の材を乾濕の

名をテュオブジス、ドラブラータと稱す此の地方にては津輕産のものを草槓と云ひ檔は全々別種の如く信じ居るなり羅漢柏は内地各所に自生し地方によりて其の名を異にす東北及北海道にては之をヒキキと云ひ關東にてはアスナロと云ひ木曾にてはアスヒ大和にてはアスカビ又は鬼ヒキと呼ぶ多は天然生にして近頃は各地少量の造林を爲すものなきにあらざれども其人工造林として成功し又其經歷の古きものは能州特に鳳至郡を以て第一となさざる可らず。能登には檔の天然林なく恐らくは往古に於ても有らざりしならん今日存する檔材は皆挿條によれる人工林なり。而して能登に於ける檔造林の起源を尋ぬるに今を去る四百年前鳳至郡浦上村泉勘十郎の祖先兵右衛門なるもの奥羽地方より持來り植栽したるに始まり爾來輪島漆器業の發達並に能登特に鳳至郡の土地が檔造林の繁殖流行するに従ひ其の造林方法並に利用方法一層進歩を來し遂に今日の盛況を見るに至れり從つて其造林及利用の点に就ては多くの實驗を経今日に於ては能州人は此等の点に就き少なからざる智識を有するに至る

二、識別法

能州の檔に三種の別あり

イ、「マアテ」

葉の鱗片廣く全形他のものより(津輕産のものよりも)大にして肉亦厚し莖實小形にして稍圓し

變化烈しき處に放置すること數ヶ月ならば無數の裂線全部に散在して無用の長物に化することあり

二、用途

此の地方に於ては檔皮は總て屋根葺料の外他地方の如くマキハダ及大繩等に作ることなす然れども材の利用に至りては頗る周密に注意せらる

イ、眞 檔

能州産マアテ材の良好なるものは漆器様材として主に輪島町に於て消費せらる輪嶋に於て使用する主なるものは膳及折敷、角形盆、重等の盤板を第一とし次に其等の縁及蓋等なりとす盤に挽かるマアテは價格最も高く大抵廻三四尺以上にして巾尺乃至二尺位の盤を取るを目的とし以下のものは主に縁材として板に挽かれ又丸太(長さ六尺)の儘之を加賀地方に輸出し屋根の木羽、附木及桶材等となる二尺五寸を下るときは用途甚狭くして柱及建具用の板類は寧ろ檔草を以て便利なりとせり

輪島漆器に對するマアテの關係は頗る親密にして輪嶋の指物職工はマアテ外の夏決して他材を混することなし(クリモノの原料はケヤキの外使用せざる如く)塗師の談話によれば他の諸材にて作れば器物は一二年を経たる後漆面に木理の浮き出づるを常とす若し木理の浮かざる程多くの手数を要するならば多少價格に相違ありと雖當地原産のマアテ材を使用すること甚利益なり總て漆の乾く時は(即漆酸化して固結する時)樺材の緊縮すること非常にして年月を経るに従ひ其秋枕部は終に塗漆面に歴々として現はるゝに至る然して獨りマアテの良林のみは同一の生材乾燥法及漆法を施すも多年を経過して其の面尚ほ依然として鏡の如しと、勿論當地の生材乾燥法は頗る簡單にして生板を一ヶ月間程烈日に炙り後半ヶ月程之を倉中に貯蔵するに過ぎざる也

曲物の原料亦マアテの外使用せられず

曲物料としては木理緻密にして且正しく幹通直上下直徑の差極めて小なる樹木を撰擇するが故に其の價格亦從て高し

劣等なる材は角物又は板に挽きて之を穴水町に向けマアテと同一用途に充つ

ロ、草 檔

マアテの需用は輪嶋を中心とする如く草檔の集散は穴水を中心とす四周の溪間より出るクサアテは角物及板となりて穴水に集り越中及鹿島の方面に輸出せらる小材は主に角物として三寸角より五六寸に至る六寸角以上は特別の注文あるにあらざれば之を板に挽くを經濟とす角物は主として根太、貫、垂木柱等にして板は主に建具用材なり此の地方は北海道向の諸建具を製作する故特別に多くの需用あるなりマアテの板は堅くして加工困難なるもクサアテ板は軟にして製作し易く手挽を使用すること隨意なるを以て特別の場合を除くの外クサアテを使用するなり金澤市に於ては建具類に多くクサマ

的で世界の大勢を知り新科學を吸收する様にしなければならぬと私が云つたといふれば輕いが乃木さんが云はれたといふれば大變重みがあつて服膺すべき言であります、大變長くなりましたが吾々は生きながら聖人となり生き乍ら神様になり生き乍ら佛様とならなければならぬ職業の如何を問はず一生涯其方の修養を怠つてはならぬ、而して釋迦や孔子と同じ域に達せねばならぬ、諸君は御存じかも知れないが長州の村田正風と云ふ人が十八才のとき江戸へ上る途中で始めて富士を見て何んと詠んだか只今随分人口に膾炙して居る「來て見ればさほどでもない富士の山釋迦と孔子もかくやあるらん」實際釋迦も孔子も現代に居つたならば人間以上ではありません、吾々はお互に立派な人を理想とし標準として克己心により心の賊を破り玲瓏玉の様な心を持つ立派な人となる様心がけ様ではありませんか、自分も未だ修養しつゝあるものであります、自分の思ふ所を述べて長時間御静聽を煩し甚だ恐縮次第であります(完)

研究

能登の檔材 寺尾 敬 二

第一 名稱及識別

一、名 稱

檔とは能登に於ける羅漢柏の方言にして學

名をテュオブジス、ドラブラータと稱す此の地方にては津輕産のものを草槓と云ひ檔は全々別種の如く信じ居るなり羅漢柏は内地各所に自生し地方によりて其の名を異にす東北及北海道にては之をヒキキと云ひ關東にてはアスナロと云ひ木曾にてはアスヒ大和にてはアスカビ又は鬼ヒキと呼ぶ多は天然生にして近頃は各地少量の造林を爲すものなきにあらざれども其人工造林として成功し又其經歷の古きものは能州特に鳳至郡を以て第一となさざる可らず。能登には檔の天然林なく恐らくは往古に於ても有らざりしならん今日存する檔材は皆挿條によれる人工林なり。而して能登に於ける檔造林の起源を尋ぬるに今を去る四百年前鳳至郡浦上村泉勘十郎の祖先兵右衛門なるもの奥羽地方より持來り植栽したるに始まり爾來輪島漆器業の發達並に能登特に鳳至郡の土地が檔造林の繁殖流行するに従ひ其の造林方法並に利用方法一層進歩を來し遂に今日の盛況を見るに至れり從つて其造林及利用の点に就ては多くの實驗を経今日に於ては能州人は此等の点に就き少なからざる智識を有するに至る

二、識別法

能州の檔に三種の別あり

イ、「マアテ」

葉の鱗片廣く全形他のものより(津輕産のものよりも)大にして肉亦厚し莖實小形にして稍圓し

外皮赤褐色を呈し巾廣く縱裂す 幹材多くは拗折し横断面不正なり樹形ヒノキニ類す

ロ、「クサアテ」

葉の分岐点遠くして鱗片細長葉の臭氣は前者よりも強くして甘味を帯ぶ莖實は此種中最大にして稍長し 外皮灰褐色(特に若き皮)にして細く縦裂し前者の皮はヒノキに似たるも之はスギ皮の如くにして且平滑味強し

幹材通直にして拗 せず横断面正しく樹形肥大スギに類す

ハ、「カナアテ」

葉の鱗片ワサアテより短くしてマアテより巾狭し肉甚薄く葉の分岐点密接し臭氣最も淡し莖實は角立ちてヘシの實の如し 外皮赤褐色にしてマアテに似たるも裂け方著しからず

樹形稍殺にして稀に拗折横断面不正なり 生長最も遲緩なるが故に梢頭秀出せず枝條甚だ長くして且太く幼枝支出の角度大にして六十度以上に開くものあり

以上三種の内又類種の細別ありて能州人は能く之を區別すれども特徴著しからず

第二、利用

一、檔材の特質

檔材は白地に淡黄を帯び光澤ありて香氣を有し杉よりも堅くして抵抗力強く木理通直にして剝げ易く比重割合に小なり

尚ほ各種毎に其の特質を列記す

イ、眞 檔材



テを使用しアテは一切用ひざる如きも金石より輸入する能州アテの一部は價格低廉のため或は其間に混用せらるゝもあらん

ハ、金 櫛

カナアテは舊時之を植栽したるも今日は其の生長の速きと比重の大なるにより全く之を植栽せず其の今日に残存するもの甚少數なり恐らくは將來十數年後カナアテなるものは全く能州に其跡を絶つに至るへきか然れども此の材は其の抵抗力の強大なるにより土木用材、土蔵床板、土臺及梯子段、桶材等に用ひて丈夫なり

三、價 格

穴水に於ては一定の材木商あり木挽を使用して粗製品となし之を各地に輸出するが故にクサアテに對する市上價格は略ぼ之を知り得れども輪嶋に於ては漆器業者直接に木挽を使役して山地にて板に挽かしめ又は木挽業者自ら山を買入れ之れを輪嶋に出す等の場合多きを以てマアテの市上價格甚不明瞭なり殊に用途は精巧なる工業に屬するを以て盤板の價格は不規則なる見積を以て買寄せられ巾の廣狭節の多少等により甚しく高低あり其立木代價目廻五尺位にして六尺の木呂十個以上を得らるゝもの一木呂平均一圓四五十錢なりと雖其幹材中節の多少拗壞の工合皮の巻込陽光のアテ心朽等の有無を豫想して個木毎に單價異なるに依り其の價格の標準を推定すること甚困難なりクサマキは五寸四面角一丈二尺のもの五錢(一

才の單價) 根太、貫にて十三錢五厘を普通とす

第三、生 長

一、地 位

櫛は割合に乾燥地及粘土地に耐樹を植栽するに不適當なる能登第三紀の丘陵地は櫛の造林の發達したること怪しむに足らず粘土の丘上に植栽せられたる古き杉林は枝條疎にして赤色を帯び伸長生長全く杜絶して梢頭圓形多くの不良なる毬實を附着するを見るも櫛は是等の劣等地に於て緩慢ながらも尚ほ可なり生長をなし樹冠の鬱閉を持續して能く林地の保護をなす

上等なる土地に於ては美事なる生育をなし枝下十間以上金高二十間以上に達する肥大なる長幹稀ならず

火山の接觸變化を受けたる夏岩地は可なり生長をなす傾斜の方位に就ては重大なる關係を見ざるが如く山腹の上下部に就ては杉程に地位の差を見ず

二、成長状態

イ、生長の比較

最下等の地に於ては生長杉に勝るも高等の地に於ては杉より小なく一等地に於てクサアテに混植せるスキは平均一尺三寸の胸高直徑を有する時櫛は一尺二寸に達すること困難なるを見る

アテ三種中最大なる生長をなすはクサアテにして次はマアテ最小なるはカナアテなり  
ロ、枝  
伸長生長の最大なる幼時に於ては一年間に五乃至七個の枝を支出し各枝の距離夏季に於ては七八寸に達し秋の枝は其距離近し、生長盛大なるときは枝條支出の角度小にして枝端皆斜に上向すれども生長遅緩なるに至れば角度開けて枝條發達し老木の古枝は斜に下向するものあり  
枝は百二十度に互生し右上に次枝を出す故に枝の順序を追ふて幹の周邊に一線を畫すれば左方に屈曲せる螺旋を得へし  
幼き枝條は左右に扁平にして表裏なきも三年目に至れば漸次換して上下に扁平となり裏面(下面)に白色を呈するに至る枝下は普通の立木度に於て常に全長の四割五分なり  
ハ、幹  
マアテの幹は肥大生長最大なる時期に至れば多く左に換れ醜狀を呈す枝條の多く發達せる程然るが如し  
マアテは幹の横断面不正にして面積の割に周圍線非常に長く其の漸く壯年に達し肥大生長の盛なるに及べば強大なる根は地表より發達して根株の形を愈々不正にす此の際其の周邊の凹陥せる部分は永く其の形を維持せずして直徑の増大に伴ひ漸次凸出する時は其の凹陥の部分に皮を殘留し遂に其皮を巻込むに至る斯くの如く皮を巻込み又甚しく凹陥せる部分は尚ほ漸次肥大して正圓

に近づくに従ひ遂に其凹陥したりし處の溝に沿ふも皮に裂目を生じ恰も他の害を受けて幹加縦裂せる如き觀を呈するものなり概してクサアテは樹靜満するもマアテは梢殺のもの多し(以下次號)

學校記事

○學則改正 本校學則は去る二月中職員會議に於て審議の結果改正を加へ縣へ上申せるが三月末認可となれり改正の主なるものは學期の變更、暑中休暇の全廢、學科目配當及時間の改正等にして又縣令に據り改正せられたるは授業料の一ヶ月壹圓貳拾錢に増額せられし事等なりとす學期及休業日は左の如し  
學年ヲ分テテ左ノ二學期トス(第五條)  
前期 自四月一日起至九月三十日  
後期 自十月一日起至翌年三月卅一日  
休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ(第七條)  
一、大祭日及祝日  
一、日 曜 日

一、開校紀念日 五月十五日  
一、學期末休業 自九月廿四日  
一、學年未休業 自九月三十日  
一、學年未休業 自三月廿五日  
一、冬期休業 自十二月廿二日  
○武術教師任命 曩に福嶋警察署巡查部長として赴任せる松原大造氏は今回四月廿八日付を以て本校武術教師を囑託さるゝ事となれるが今後は毎週二日宛出校武術指南の

勞を取らるゝ筈なり擊劔部員の活躍期して俟つべし慶すべき哉

○安藤校長出張 四月廿七八兩日校長は北安曇郡廣津村及八坂村に出張全地有志者と共に八坂村字朽澤に於ける竹林を視察し其枯死の原因及び之が善後保護策に就て講演する所あり廿九日歸校せらる

○實習終了 四月始より月餘に亘れる實習は本月八日を以て漸く完了せるを以て午後三時一同校庭に集合し七宮教諭校長に代りて訓示を述べ北村教諭は實習主任として實習中の作業規律等に就き所感を述べられ併せて其勞を謝し終つて慰勞として學校より大福餅の饗應あり一同舌鼓を打ちて解散せり因に本年度實習は北村教諭の述べられし如く苗圃面積の擴張に加へて見本林の移植もあり前年度に比し約二倍の事業なるにも係らず能く僅少の時日を以て完了せしは生徒自身の如何に努力せしかを思ふべく規律協同等の點に於ても著しく進歩の跡を見るは喜ぶべき現象と云ふべし

○依田本縣知事臨校 本月八日依田本縣知事は新任巡視として來福校長は贊川驛迄出迎へ須原迄隨行せるが翌九日午前九時半校長の案内にて本校に來臨校長室に於て種々諮問あり校内を一巡して大体の視察をなして同十時歸福せられたり

○修學旅行 例年の通り三年生は關東方面に二年生は關西方面に旅行すべく三年生は七宮嶋内教諭付添二年生は北村教諭川崎助

手付添にて十四日午前夫々目的地に向て出發せるが三年生は來る廿七日、二年生は廿五日歸校の豫定なり

○遠足 本月十五日は本校創立紀念日に相當するを以て紀念式を舉行すべき筈なれども二、三年生は旅行中なれば之を廢し一年生は黒澤迄遠足を試むる事とし全日午前八時舊校々庭に集合、林教諭の開校當時の話及び校長の本校沿革大略及び今後の覺悟に就ての訓示あり終て新家、大場、兩教諭引率の下に出發午前十一時黒澤に達し小學校にて休憩晝飯を喫し里宮及本社參拜、夫より橋渡の奇勝を眺め午後四時歸校せるが折柄紅杜鵑の盛りにて満山燃ゆ立つ許の所もあり若葉青葉の景色を賞し實に一日の清遊たるを失はざりき

○手塚小使解備 本校創立以來使丁の任に膺り精勤せる手塚小使は今回家事上の都合により三月限退職する事となりたるを以て學校長より金十圓賞與せられたり  
○補缺入學 其後補缺入學を許可せられし者は上條玄策、吉村源一、小松良輔の三名也  
○櫻樹植栽 本年三月の卒業生一同は紀念の爲校庭に櫻樹五十本を植栽せるが一二本の枯死を見たるのみにて餘は全部根付き元氣よく嫩葉を吹きつゝあり





校友會記事

○衛生醫術談 四月廿三日午前八時より校友會にても恰も本郡徴兵検査の爲來福せる村井十五師團軍醫部長を招請して講堂に於て最新の醫術談を聴けり全氏は放射線研究に關する経路及之が醫學上に於ける効果を約一時間に亘りて説述され最新醫學の如何に進行しつゝあるかを説明せられぬ近來稀に見る學理的講演なりき

Table with financial records: 收入之部 (Income Section) and 支出之部 (Expense Section). Includes items like 金參百六拾圓, 金貳拾圓, 金七拾貳圓, etc., and department names like 研究部, 庶務部, etc.

福澤君 弓術部委員 東原君、松澤君 遠足部委員 大森君、新井(彌)君 ○林友代前納 本年三月の卒業生全部は林友五ヶ年分代として金壹圓五十錢宛前納せるが右は二月校友會總會の決議に基きたるものにして爾今卒業生は總て此例に據るべく尙従前の卒業生諸君も可成此前納法に依られん事を切望す

友林蘇岐

今日のは令嬢若様を痛快に罵倒し、体の美は必らず粧はず飾らぬ自然の美でなければならぬかゝる肉体美を得んには大に体育に留意すべしと云ふのであつた

体力養成 伊藤(正)君 大に体力を養成せよ其意味に於て大食官たれ色(皮膚の色)は黒かれと云ふ筋で非常にうまかつた君は入學以來一年間喋りて言はなかつたがどうして隅に置ける代物ではない良鷹爪をかくすと云ふは君の如きを夫れ言ふ

赤毛布 吉池君 君は本會では初陣だが演壇場では戰場往來の勇士である、態度なら口調なら最早立派なものであつたが、その發音が拙ない矯正したものだ、説く所はお伽噺式で君自身の失敗談

實力主義 原(正)君 開口一番智慧はあるが時間なくてなど、吹いて見せ而して學位稱號の無價値なるを道破し實力主義を振り翳した、論旨着眼は甚良かつたが「ねばなりません」の連發は耳ざわりであつた

學生の服装 萩原君 學生の服装は質素清潔なるべきを論じ彼の華美を街々墮落學生に痛棒を加へた、併し音聲稍低く淀みのあつたのを遺憾とする一層の努力を望む

一言撰りて流暢ではないが、沈着の態度がいたく気に入つた。併し折々原稿もないに机を見るのと羽織の紐を大事ううに拵るのとは見苦しかつた。君の所論は今日晝食の時考へるには人生最終の目的は死である吾人が此學校に入つたのも死を以て覺悟としなければならぬと云ふのであつた

は又一年隨一の小男演臺から僅に首だけが出て居た併し飛入りをする程あつて中々の能辯家、手振足取りに至つては講談師も徒跣である。筋は太郎次郎三郎の三人兄弟中一番のあばれ者三郎さんが二人の兄の成功しなかつた空飛ぶ船を造り上げて遂に王冠を贏ち得ると言ふた伽噺。

人生の幸不幸 塚田君 榮達が幸で落魄が不幸か富豪が幸福で貧民が不幸なるかは直に断定することは出来ない人は如何なる境涯にあつても心持一つで満足は得られ幸にも不幸にもなるのであるといふのを面白く説いた。



御送付被下ば間にあひ申候。末筆乍恐縮諸先生へ宜敷御鶴聲被下度候勿々不備三月二十八日 無元九拜 安藤先生 梧下

○木下神藏、松原三郎兩君は新嘉堡に於ける鈴木林學士經營のゴム栽培所に雇聘せらるゝ事となり本月廿日横濱出帆の汽船にて出發の豫定なりと云ふ遙かに健在を祈る

○杉木貢君上水内郡林業技手に轉任

○岡田恒治君は任森林主事、長野小林區署在勤を命ぜらる

○若林遊龜尾君は任森林主事、長野大林區署管内村松小林區署在勤を命ぜらる

○小瀧升太郎君は今回歸美郡林業技手に轉任

○小林哲三君は秋田小林區署を命ぜらる

○市川豊二は君東京大林區署管内群馬縣吾妻郡中之條小林區署を命ぜらる

○成瀬義郎君は高知大林區署管内宇和島小林區署を命ぜらる

○下畑徳十君は本年一月中左記の通り任命朝鮮群山地方金融組合技手兼臨岐、群山國有地小作人組合技手、兼公立群山農業學校講師嘱託

文苑

予が所感 佐紫生

○靈なる活動を惹起せしむる沈思冥想は更に行為の反省を促し反省は自覺理姓を廣す

もし反省なくば釋氏の『綠なき衆生』孔子の『朽木糞土』實に擗散の徒ならん實に自覺は生存競争の基礎となるべき原動力にして新生の第一歩なり即ち自覺は生涯の分れ嶺にして靈性の危機なり清白なる信仰信心に入り向上至美の生活を送るも浮沈虚無の人生觀を懐いて本能満足を標榜溺惑的生活を送りて不平不満に其一生を徒了するも實に分れ嶺に於ける方向一步の差のみ嗚呼反省なき野郎は擗散無用の人のみ。

○讀書は精神の飯なり。其描かれたる人格事象にして現代の者たらしめば吾輩或は直接に觸接し觀察する事により其感化教訓を受くる事を得んも時間空間を隔てたるものたらしめば必ず讀書の媒介を俟たざるべからず徒に身のみ食を饒にする奴は身のみ太り精心の肥滿する事なし精神肥わざれば心身兩全にして修養の士と云ふを得ず貧弱極れるものなり。

○現代は實業萬能の時代なりと云ふ實に地球の一隅社會國家に横溢する時代思潮の流動は實利己己虛無本能満足主義に至る迄皆淺々しき唯物思想に源を發せざるはなく信仰の想念尊虔の情は寥寥晨星の如し嗚呼然しながら實業に捉はれし現代の人よ！爾は如何にして爾の現代以上の現代を超越するか如何にして實業發展せしむるかいかにして境遇に勝つか如何にして其運命を了解せんとするが眼々の間人生の森羅萬象を支配する此偉大なる實業の力は到底唯物的思想

の説明する事能はざるものならずや須く諸賢よ大々的に實業を發達せしめ理想的に斯業を成就せしめむ事を祈る。

俳句 土屋紫紅

凝視する樺火に想事茫然と  
美林系の山口樺に推敲す  
推敲す柳の窓に春の雨  
何を搗く白並べある春の月  
そぼふるや木曾の山路路句ふ  
春の風やせ畑の脊や石光る  
辻堂に桃三々や五々の婆々  
菓子食うて野茶屋いづれば霞立つ  
春の風御舟の石や御馬石  
(註。御舟石、御馬石共に佐渡眞野御陵にあり)

京城本多君に申す先般御送附の京城便り本誌に掲載の苦の處記事編纂已を得ず來月に廻し候間右御承知を乞ふ 編 輯 係

稟告

新築校舎落成式舉行に就て會員諸君に稟告す

拜啓時下柳暗花明の好時節各位益々御多祥の段奉賀候陳者母校新築工事は去る明治四十二年起工の處其後着々進捗愈々本年九月を以て全く竣工と可相成都合に有之候願れば明治廿一年以來彼の狹隘不完全なる舊校舎に於て幾多の不便と不利とを忍び來り候は既に諸君の熟知せらるゝ所と存候然る

例により先づ和歌一首(觀櫻會の席上にて) 酒に酔ひ花に酔ひつゝくらすこゝろ

たのしきことの極みなりけれ 〇私に毎朝木曾川へ入つて水を浴びるでや。すがそれが大層健康に及ぼして感胃にかゝる様なきことは殆ど無いからが故に私は冷水浴を皆さんにお奨めするんぞや併し冷水浴の盛になるのは私が長命を保つた世人に謳はれる様になつての後の事です。すから此處なんぞやせう三十年位後を思ひます。は頗る要を得て居つた

櫻と紅葉 深見君

櫻は佐保姫の艶麗を偲びしめるもの俗人の愛するものであるが紅葉は如何血を吐いて斃れるではないか之れ誠に武士の本領であるを櫻を痛罵した。一度君の舌尖に懸かれば何者も屏息せざるなしと云ふ有様である 快男兒フレー・フレー!!

弓 酒井君

弓の由緒來歴より弓が体育、衛生、競争心の喚起、禮容の調節、精神修養等に効益あるに至るまで百方面より詳説し此際一年生諸氏は速に入部すべきを望みて降壇した。誠に弓術部のために萬丈の氣焔を吐いたもので部長として大に努めたりといふべきである。

偶感 校長先生

徴兵検査に於ける本校出身者の成績及井口師團長の話柄に就ての感想。戰敗國林業經營者としての覺悟(内村鑑三氏譯)がす

父子信仰と樹木とを以て國を救ひし話てふ書中に(詳し)等諄々として且つ説き且つ訓へられた。安評多謝(都竹、東原)

校友消息

○武居文作君は今回京都紫野大徳寺に參學中なるが三月下旬休暇を得て郷里上松に歸省され其序を以て母校を參觀せられたり其後再び歸山されたるが其前郷里より安藤校長宛寄せられたる書翰左の如し

肅啓上仕候陳者即辰風口清和之候益御健勝に被爲涉候段幸此事に御座候過般小千參上仕候節は越格之優遇を忝うし奉萬謝候其節御下問を賜はり候杜郎の著和留丁唯今幸便を以て御届申上候間御閑暇之節多少御役にも相立候は幸甚に御座候目今學年の變り目として御繁勞亦一段の御事と拜察仕候未見の卒業生諸兄の中にも一個兩個平生御鉛槌の處に向て鞠躬微困して異日江湖の標榜たらんとするの士有之事と欽仰仕候新入學生も本年は空前の多數を計上せられ候趣兼て拜聞仕候御高慮に達する迄も無之候へ其採用の如きは従前に勝て綿密ならん事を切望仕候學業の爲に身命財を放下する底の純一無雜なる青年は近時益減少し多くは糊口塞席の花公子たらんとするの傾向聊所見すること無きにあらず候入學後は等操芽早種の徒に森林化育の重任を賦せんか校風

忽地に墜ちて狐狸の巢窟たらん事日を期して目視すべく父兄にして愛兒の緇素純雜を辨せざる者徒に多大の投資を投て學門に入らしむるも平常の行履を見るの機少く一に前人の蹤跡と浮雲の如き僥倖心を以て兒の前途を卜するが爲に忽踏踏する能はず醒睡熱策を加へらるゝに及んで猶愛著に迷ひて是を庇保し濫に師の口頭の邊に向て怨恨を恣にす茲に至て上方に位する者肝膽冷や牙戰き空しく臍を喫して長嘆する外無之候小子既住を追思して冷汗腋下に降るを覺候現代教育の累弊動もすれば統計的死數に重きを置き古人の龜鑑を無視し先哲の鴻規を度外し真正敬虔なる參學を擬するに商賈飯錢的精神を以てし學人を籠罩し去り是を輕佻和合の寮舎に養育し偏に卒業生の多數を以て社會に誇らんとする者あるは苦しい哉吾校にありては一人の師一人の弟あれば講學道に其所に於て開筵せられ此國に貴重なる票素を確立し斯業を後世に遺さんとするの風様不可無之と被存候最早實習の季も遠からずと拜察仕候冀は兒孫を愛して其醜を忘るゝ事なく門庭益々御峻峻英靈之漢をして把得放行其機を逸せざらしめ専心斯學の一竅に向て突入せしめられん事を懇望仕候以上潜越をも顧みず雪上更に霜を加へて申上候小子も不日行雲流水の途に上るべく尤も掛錫の地は當分大徳寺に御座候(通信等は上松の自宅へ



に母校の發展と時勢の進運とは到底永く斯かる状態に停るを許さず遂に新に地を新開村に卜し數萬の巨資と五年の歲月とを費して茲に始めて完全なる校舎の設立を見るに至りし次第にて候惟ふに舊校舎は元來山林學校として設立せられしものにては無之當初福島小學校として建築せられしものを假用せしに過ぎず隨て母校今回の新築は一面より見て眞實の勦建とも云ふべく加之母校が十有餘年所在の福嶋町を去りて新開村の地籍に移轉するを思へば母校の歴史上實に一新時期を劃するものと可申候且又本年度入學者の開校以來未曾有の多數に上りしが如きも校舎の完成と相俟て母校が向上發展の一大機運に逢着せるを證するものに有之我輩同人の深く慶幸とする所に御座候今や母校に於ては此好機會を利用し來る十月中旬を以て盛大なる落成式舉行の筈に内定致居候に就ては本會に於ても間接に母校の事業を助成し一は以て母校歴史上の一新記録として永久に之を記念すると同時に一は以て母校發展の一大關鍵と致度此に大に落成式資金を募集致候何卒會員諸君奮て此舉に賛同せられ本會が母校に對する協賛の目的を完全に遂行せしめられ度冀望の至りに不堪候

大正二年五月

校友會

敬具

新校舍落成式資金募集要項

- 一、新校舍落成式を記念せんが爲資金を募集す
- 二、出資額は一人に就き最低壹圓とす
- (大正二年一月校友會總會の決議に基づく)
- 三、記念事業左の如し
  - イ、林業教育展覽會
  - ロ、記念印刷物發行
  - ハ、運動會
  - ニ、祝賀會
  - ホ、其他
- 四、出資申込期限七月三十一日
- 五、納金期限九月三十日
- 六、送金は凡て校長安藤時雄宛の事(振替口座東京一七六〇〇番安藤時雄)
- 七、會員の領收は凡て本誌上に掲載するを以て一々領收證を發送せず

稟告

多年本校並に本會の爲盡瘁せられし小松先生は昨年七月熊本縣珠磨學校へ御榮轉被成候に就ては聊同先生の功勞に酬ゆる爲記念品贈呈致度有志の諸君は左記御含みの上應分の御寄附相成度此段得貴意候也

- 一、御送金は振替東京一七六〇〇校長安藤時雄宛の事
- 二期限は本年六月十日迄の事
- 一、御送金額及芳名は本誌に掲載し別に

請取證は差上げざる事

大正二年五月

木曾山林學校校友會

稟告

多年本校並に本會の爲盡瘁せられし高木先生は今般家事上の御都合に依り三月限退職被致候に就ては聊同先生の功勞に酬ゆる爲記念品贈呈致度有志の諸君は左記御含の上應分の御寄附相成度此段得貴意候也

- 一、送金は振替東京一七六〇〇番校長安藤時雄宛の事
- 一、期限は本年七月十日迄の事
- 一、御送金額及芳名は本誌に掲載し別に請取證は差上げる事

木曾山林學校校友會

會費領收

金壹圓	中田辰雄君
同	長谷部兵治君
○小松先生へ寄贈	
金貳圓	長谷部兵治君
金四拾錢	松澤莊太郎君
金五拾錢	中田辰雄君
累計四圓四拾錢	